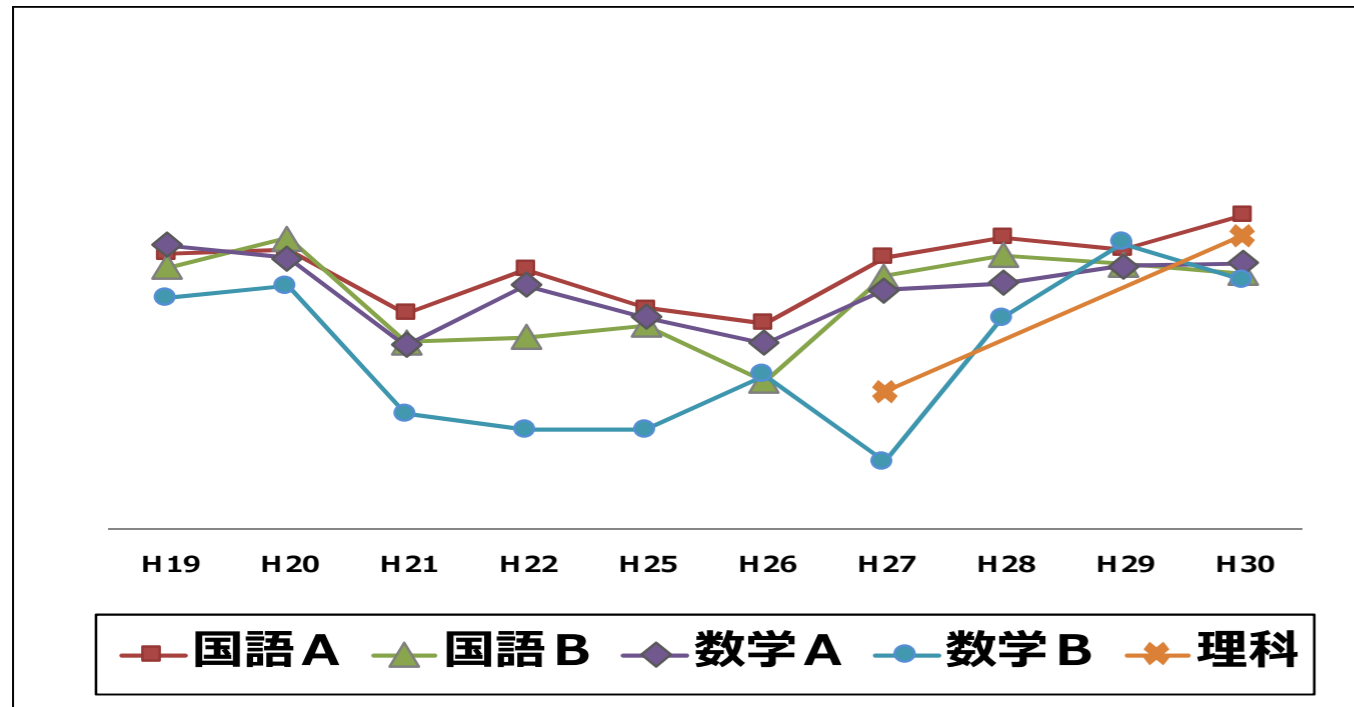


# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果について

## 【全体概要】

### 学力調査の結果

※調査結果について  
教科や出題範囲が限られていることから、  
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。



### < 学力調査結果の概要 >

- 国語 A について  
→平均正答率は、全国平均をやや下回っている。特に「話すこと・聞くこと」に課題がみられるが、「読むこと」については全国平均を上回っている。
- 国語 B について  
→平均正答率は、全国平均を下回っている。国語の活用に関する力に課題がみられる。
- 数学 A について  
→平均正答率は、全国を下回っている。「数と式」「図形」に特に課題がみられる。
- 数学 B について  
→平均正答率は、全国平均を下回っている。数学の活用に関する力に課題がみられる。特に「関数」に課題がみられる。
- 理科について  
→平均正答率は、全国平均をやや下回っている。特に「物理的領域」「生物的領域」に課題がみられる。

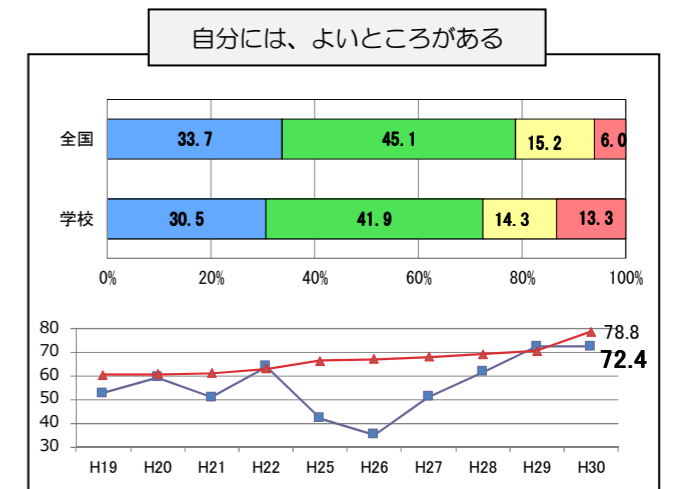
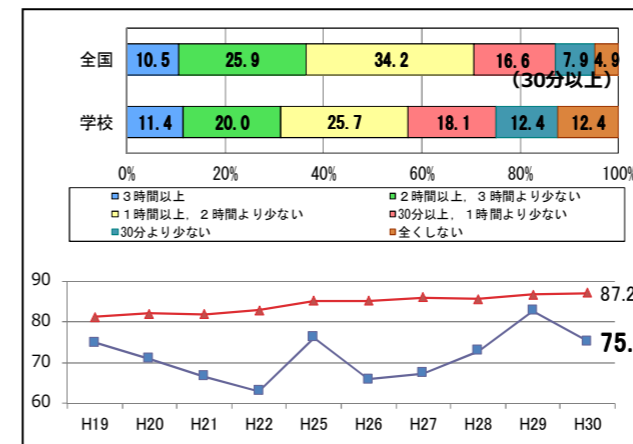
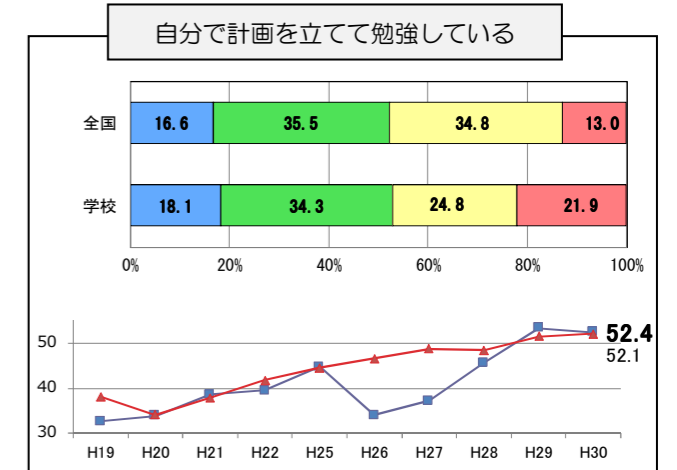
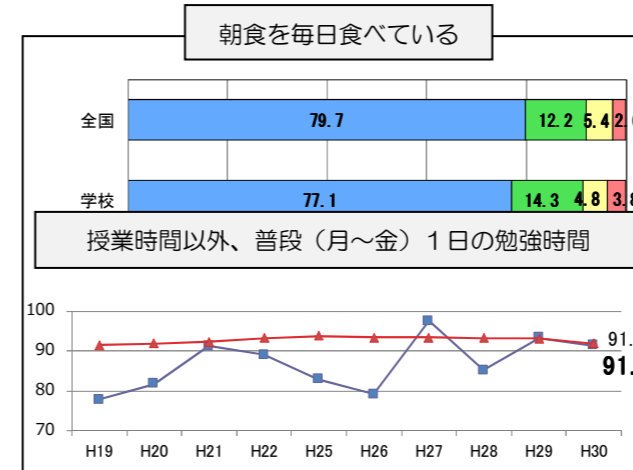
※本調査は、平成 19 年度から実施されています。

※平成 23 年度は中止(東日本大震災)、平成 24 年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

## 質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらぬ」「あてはまらぬ」を示しています。  
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合もあります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



### < 質問紙調査結果の概要 >

今年度の質問紙調査は、昨年度から質問項目が減少し内容も変更された。そのため、全項目で経年比較することはできないが、自己肯定感や学習面について改善がみられた項目もあった。しかし、家庭での学習時間や学校生活に関する項目では、昨年度から数値が減少した項目も多くみられる。

## まとめ

今回の全国学力・学習状況調査の結果から、学習については、基礎基本的な「知識」に関する問題が徐々に改善傾向にあることがみえる。応用的な「活用」に関する問題も若干ではあるが同様にあるが、課題も多くみられた。質問紙調査からは、家庭生活や学校生活において改善傾向にある項目もあったが、引き続き課題がある項目も多くみられた。



<数学A> (主に知識に関する問題)

成果や課題があった設問

【成果】

最頻値は、資料の中で最も多く出てくる値であることを理解している

14 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) ある中学校の3年生の男子生徒35人の運動靴について、サイズごとに何人いるかを調べました。この35人の運動靴のサイズの最頻値は25.5 cmでした。このとき必ずいえることを、下のアからオまでの中から1つ選びなさい。

- ア 35人の運動靴のうち、最も大きい運動靴のサイズは25.5 cmである。
- イ 35人の運動靴のうち、最も小さい運動靴のサイズは25.5 cmである。
- ウ 35人の運動靴のサイズの合計を35とすると、25.5 cmである。
- エ 35人の運動靴をサイズの小さい順に並べると、小さい方から18番目の運動靴のサイズが25.5 cmである。
- オ 35人の中で最も多くの人をはいている運動靴のサイズは25.5 cmである。

【課題】

多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している

15 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 表と裏の出方が同様に確からしい硬貨があります。この硬貨を投げる実験を多数回くり返し、表の出る相対度数を調べます。このとき、相対度数の変化のようすについて、下のアからエまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア 硬貨を投げる回数が増えるにつれて、表の出る相対度数のばらつきは小さくなり、その値は1に近づく。
- イ 硬貨を投げる回数が増えるにつれて、表の出る相対度数のばらつきは小さくなり、その値は0.5に近づく。
- ウ 硬貨を投げる回数が増えなくても、表の出る相対度数のばらつきはなく、その値は0.5で一定である。
- エ 硬貨を投げる回数が増えなくても、表の出る相対度数の値は大きくなったり小さくなったりして、一定の値には近づかない。

(考察)

「資料の活用」において代表値の意味を理解しているかを問う問題である。誤答の割合として、アの最大値やイの最小値を選んでいる生徒が少なかったのは評価できる。ウの平均値を選んだ割合が高かったのは、授業において平均値に関する問題を扱う頻度が高いことが関係していると思われる。この問題に限らず数学的用語の意味理解が不足しているために正答できていない問題があり、定着をはかる必要がある。

(考察)

確率の意味を問う問題で、授業では実験を行なって理解をはかった内容である。誤答としてエを選んだ生徒の割合が全国よりも10ポイント以上高いことから、「相対度数」意味の理解不足が正答率の低さの原因と考えられる。

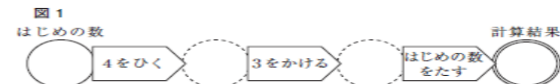
<数学B> (主に活用に関する問題)

成果や課題があった設問

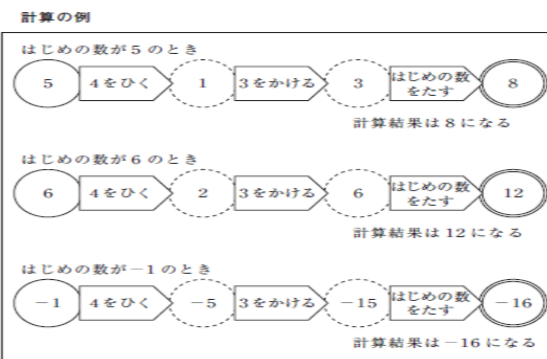
【成果】

問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる

2 次の図1のように、はじめの数として○に整数を入れて計算し、計算結果を求めます。



海斗さんは、はじめの数として○にいろいろな整数を入れて計算しています。例えば、はじめの数が5、6、-1のときは、それぞれ下のような計算になります。

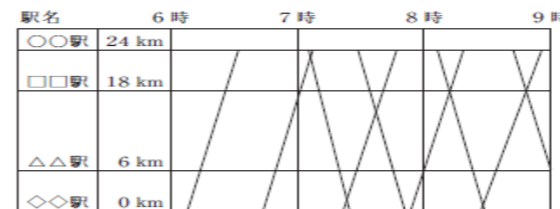


(1) はじめの数が10のときの計算結果を求めなさい。

【課題】

事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができる

3 太一さんは、自分の地域を走る列車の写真を撮影し、紹介しようと考えています。そこで、ダイヤグラムを参考にして、撮影計画を立てることにしました。ダイヤグラムとは、下ののように、横軸を時刻、縦軸をある駅からの道のりとし、駅と駅間の列車の運行のようすを直線で表したものです。



(1) ダイヤグラムでは、列車の運行のようすが直線で表されています。このように直線で表しているのは、次のように考えているからです。

列車の運行のようすを直線で表しているのは、が一定であると考えているからです。

上のに当てはまる言葉として正しいものを、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。

- ア 列車の速さ
- イ 列車の出発時刻
- ウ 列車の到着時刻
- エ 列車の走行距離

(考察)

計算の例を理解し、正確に計算することができている。無解答率がやや高いのはこの課題の意味を捉えることができなかったためであると考えられる。

(考察)

1次関数のグラフを利用する問題である。誤答としてウやエを選んでいる生徒の割合が高いことから、ダイヤグラムで示されている時刻や距離の値を選んではまっていると考えられる。値を求めるような課題だけではなく、グラフなどの資料からわかることを考察するなどの課題も設定し、グループワーク等を活用し定着をはかっていく。



<理科>

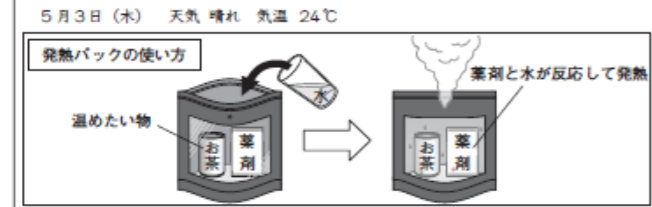
成果や課題があった設問

【成果】

アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けている

8 夏希さんは、発熱パック（火を使わずに発熱する商品）について、科学的に探究して実験ノートにまとめました。  
 (1)から(3)までの各問いに答えなさい。

実験ノート

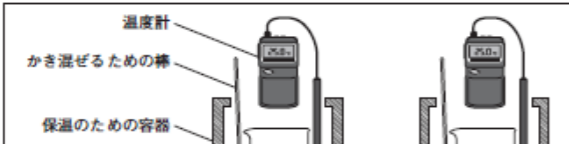


【疑問】  
 酸化カルシウムと水が反応して発熱することを学んだ。発熱パックの薬剤(図1)の主な成分として、酸化カルシウム以外に、アルミニウムも入っていた。アルミニウムが入っているのはなぜだろうか。

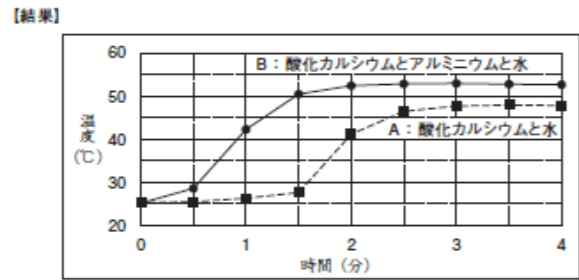
薬剤
主成分
酸化カルシウム
アルミニウム

【課題】  
 アルミニウムは、水の温度の変化に関係しているのだろうか。

【実験】  
 ビーカーA、Bを図2のようにして水の温度の変化を測定する。  
 A 酸化カルシウム10gに水3gを加える。  
 B 酸化カルシウム10gとアルミニウム10gに水3gを加える。



実験ノートの続き



【考察】  
 【結果】の図3のグラフから、BはAより温度が  ので、アルミニウムが水の温度の変化に関係しているといえる。  
 また、BはAより最も高い温度になるまでの時間が  ので、アルミニウムが水の温度の変化に関係しているといえる。

【新たな疑問】 . . . . .

(1) アルミニウムの原子の記号を、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア AL    イ Al    ウ aL    エ al

(考察)

「アルミニウムの記号」を答えるという単純な用語暗記は授業の予習復習ができており、定着しているように読み取れた。また、前文の長い説明を見てからではなく、問題文を読んでから取り組むことができているとも推測できる。

【課題】

風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる

3 秋葉さんは、コンピュータを使って、台風の情報を集めたり、進路のシミュレーションをしたりして、科学的に探究しました。  
 (1)から(3)までの各問いに答えなさい。



集めた台風の情報

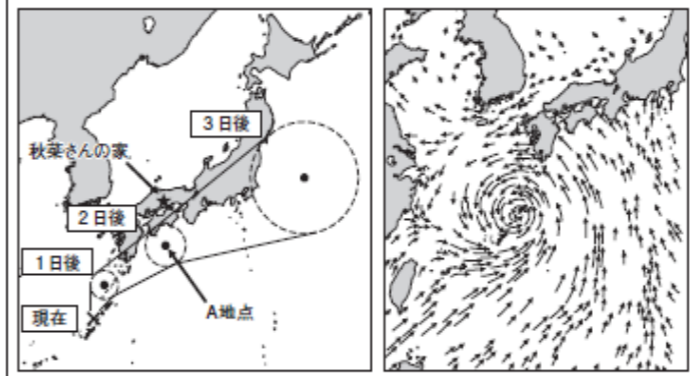
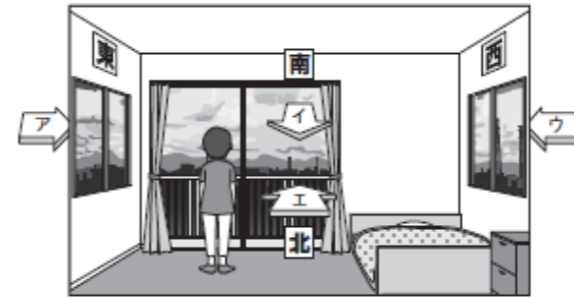


図1 台風の見通しの予想図  
 「×」は、現在の台風的位置  
 「○」は、予想される台風的位置  
 「★」印は、秋葉さんの家の位置

(1) 台風的位置がA地点のとき、秋葉さんの家で観測される風向を、図2を参考にして予想しました。予想される風向として最も適切なものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

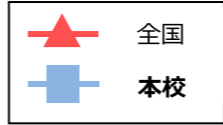


(考察)

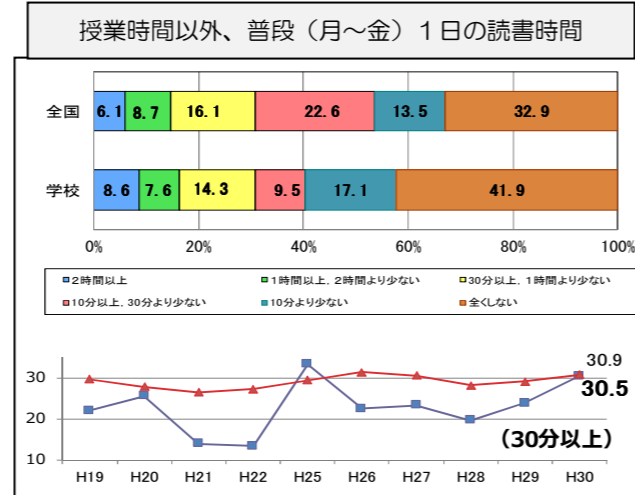
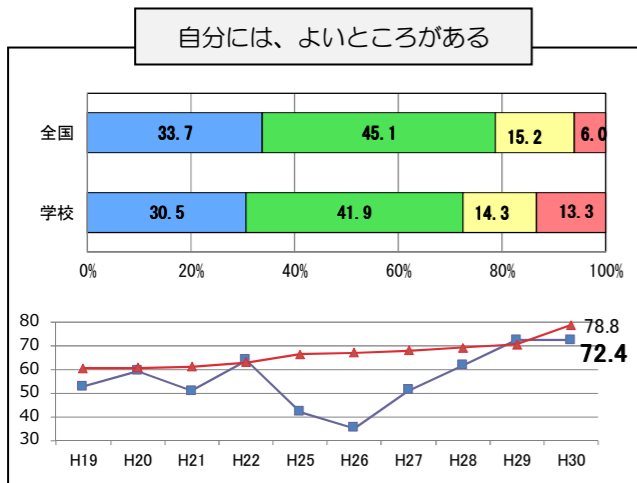
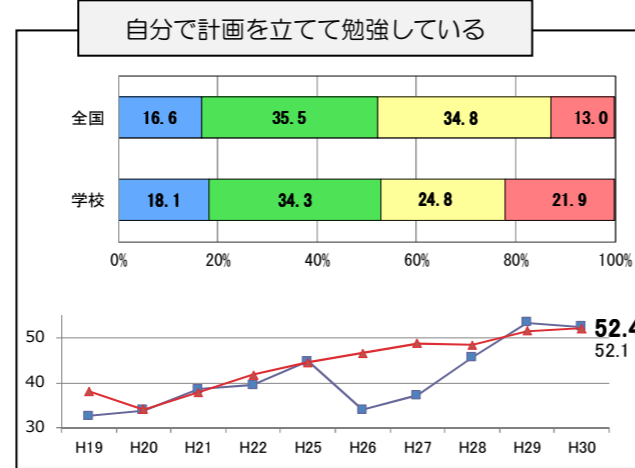
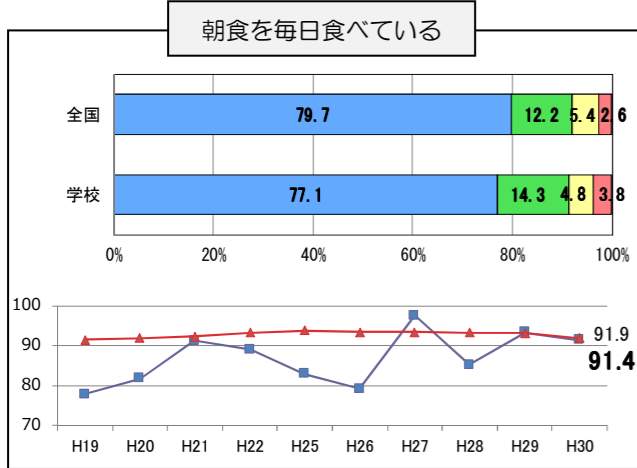
台風の進路・風向き・部屋内の立体図を組み合わせたものであった。この問題は情報処理と空間把握、予測する能力が問われている。他教科や家庭学習の他、課外活動や生活で養うことが必要であると考えられる。

# 質問紙調査について

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。  
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

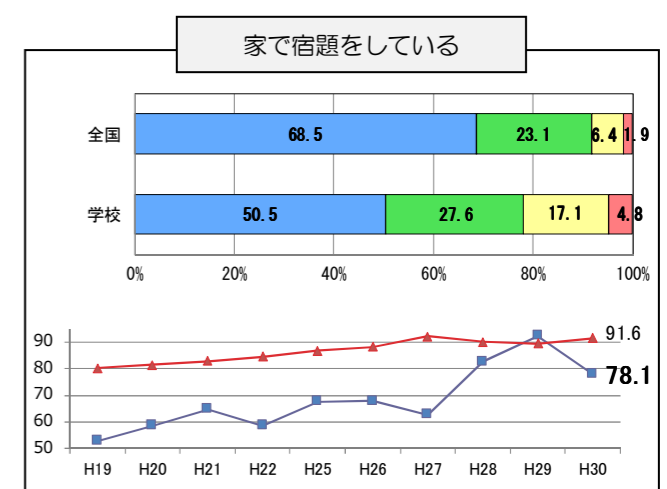
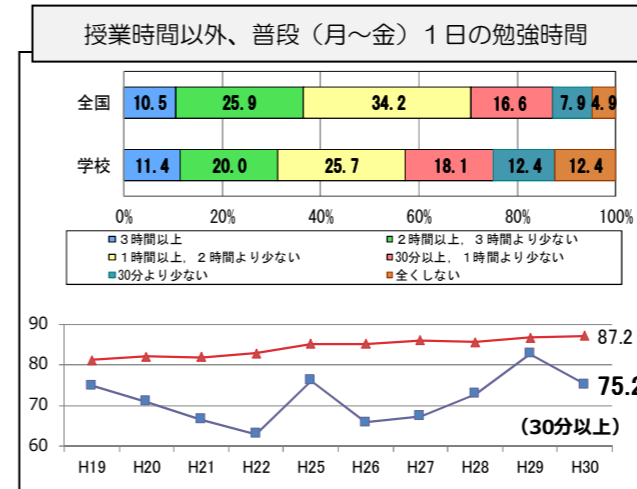


## 【成果のあった項目】



（考察）  
 朝食の摂取や就寝時間などをみると、基本的な家庭生活が規則正しく送れるようになってきていることがわかる。生徒自身の自覚だけでなく、保護者の方の協力の賜物であるといえる。自己肯定感を示す「自分にはよいところがある」の項目が年々向上していることは様々な取組みの成果と考えられる。計画的に学習に臨む姿勢も向上してきているが、学習意欲をさらに向上させ学習の習慣化を図りたい。読書については、平成28年度から学校司書の配置に伴い、図書室の整備、朝の読書や教科をはじめとする読書活動の推進、図書室の開館などの取組みにより読書時間が増加してきている。

## 【課題が残った項目】



（考察）  
 数年前と比較すると、授業時間以外の勉強時間は増加してきているが、全体としての勉強時間は少ない。2時間以上取り組んでいる上位層は比較的多いが、勉強時間が30分以下や全くしない生徒がかなり多いことがうかがえる。宿題については、学校で済ませて帰宅する生徒もいるためか、家で宿題をしている生徒が減少した。これらのことから、家庭での学習時間の確保が課題としてみられる。

## 分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

- 授業改善について
 

授業については、平成29年度から本格的に全教科の授業でグループ学習を取り入れ、生徒一人ひとりが「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう、教師主導による授業からの脱却を目指し取組みを進めてきました。毎月の授業研修会の実施、授業交流期間の設定や10月の公開研究授業などを中心に授業改善を進めるとともに、活用に関する課題設定の研究やユニバーサルデザインによる環境整備にもさらに取り組んでいきます。
- 学習規律について
 

チャイム着席については、小学校とも連携して取組みを進めています。授業開始を落ち着いた状態にするためにも大切なことです。その他、授業中の学習規律については、「グループ学習でのルール」にある、①まずは自分で考える、②わからなければ、グループのメンバーに尋ねる、③人の話を真剣に聴く、④声の大きさはレベル2～3で話す、をさらに徹底していきます。
- 家庭学習について
 

各教科からの宿題の内容を検討するとともに、自学自習力を高める研究を進めていきます。図書室の利用や読書をする時間の設定などにより読書に興味を持たせる等、読書活動の定着をさらに目指します。また、学校で作成している課題プリントやiプリ等の活用を行うなど、保護者の方からの声かけのご協力もお願いしながら進めていきます。